二十話

あがさの堤あるけど。たいしたええ天気だけど。ある日、びっきこど、がらっと土手の上さ並んだけど。いちばんはじめにあがったびっきが、土手からとぷんと、とびこんだけど。とびこんで、ぴくんと浮きあがって、土手かさかさとあがってきたけど。それ終わったば、次のびっきこが、まだとぷんとはねでえって、ぴくと浮いで、かさかさと土手あがってきたけど。とぷん、ぷぷく、かさかさ、とぷん、ぷくぷく、かさかさ……。